

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域に住み続けたいとの願いが実現できるように、そしてその人らしく元気に安心して暮らしていただけるように職員全員で実践しています。いつでも振り返られるように、見やすいところに掲げてあります。	法人理念がありグループホームとしての理念も作られている。職員にも理念が周知されており、毎日の生活の中で実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として認めていただいています。近所のお店や美容院、床屋さんなど利用して日常的に交流があります。毎月のいきいきサロンにも参加しているんな面で応援していただいています。	入居者は区役員の方々から声掛けを頂き、区が毎月主催する「いきいきサロン」へ参加し地域のお年寄りと交流している。隣組の方やお世話になっている方などに呼びかけ「おにかけの会」を開いており、大勢の方が参加されている。「グループホーム便り」を地域の方々に回覧し見ていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所の方が時々寄ってくださったり、野菜を頂いたりとありがたいことです。実習生やボランティアさんの受け入れも積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員の方々には事業所を知って頂く事は有意義な事だと感じています。会議での意見はサービス向上に役立っています。具体的な課題について話し合い、理解と支援を頂いています。避難訓練も一緒に行いました。	2ヶ月に1回開催している。区長、民生委員、長寿会会長、市役所職員、家族などで構成されている。運営推進委員会が出来たことで地域住民とのつながりや市役所との情報交換が密になった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開催月には毎回出席していただいています。ホームの内容など知っていただく良い機会です。いろいろな相談に乗っていただいています。	地域密着型になったことで市担当部署との連絡・対応がより一層密になった。介護認定の更新時の関わりや地域外の入居希望者への打診など連絡を常にとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間就寝前以外は施錠はしていません。全ての職員が危険箇所を把握し、目配り、気配りで安全を確保しつつ自由に生活して頂ける様な支援を行っています。	法人の方針に「身体拘束はしない」ということが謳われており、本部での研修に職員は必ず参加している。職員は拘束による弊害を認識している。日中玄関などの施錠は全くしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、虐待について理解を深め遵守する様努めています。法人全体としても職員全体会議を通じ、アザレアン宣言の読み合わせを行い日頃のケアについて振り返る機会を設けています。		

真田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されることがなく、十分な理解が出来ていません。今後勉強する機会を考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用されるについて体験をしていただいたり、契約の内容について時間をとって説明しています。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制については詳しく説明し同意を得る様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、来所時や電話などでご意見やご要望を言ってもらえる雰囲気作りに留意しています。又、家族会でもお話を伺う様にしています。介護相談員の訪問もあり、利用者が気軽に外部の方に相談出来る様に配慮しています。	家族会が作られている。法人の3ヶ所のグループホームの家族が一堂に会し、6月、10月に開かれている。家族同士の交流ならびに職員との関係作りにも役立っている。ホーム便りも年4回発行され家族等に配布されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフの意見や提案を聞く様に心掛けています。日々の会話の中からも感じ摂れる様話を良く聞く様に心掛けています。利用者との日常的な関わりの中から生まれる職員の気づきやアイデアは積極的に取り入れています。	定例会が月に1回あり発言の場がある。2ヶ月に1回、4ヶ所のグループホームの勉強会が合同で開かれ、職員同士の意見の交換も行われている。総括リーダーによる個人面談が行われ、意見・要望などの聞き取りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面接を行い個々の努力や実績、悩み等把握する様努めています。健康診断の実施等職員の心身の健康を保つ為の対応もしています。職員の資格取得についても勉強会等開いて積極的にバックアップしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体会議が毎月あり会議であったり勉強会であったりします。施設内研修会も実施されています。又2ヶ月に1回のグループホーム勉強会を開催して職員が学ぶ機会を多く作れる様努めています。資格取得の為の勉強会も開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のGHさんとの連絡会があり、相互に訪問して共にサービスの質を向上いく活動や勉強会、ネットワークづくりを行っています。親睦会も行われ、同業者との交流は盛んです。		

真田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ずご本人とご家族に会って生活状況や心身の状況、これからどのようにしたいのかご希望を聞くなどして安心が得られる様に配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞く様にしています。相談にいらしたご家族等の立場に立ってしっかりと話を聴き、気持ちを受け止めながら信頼関係を築く様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の思いや状況を確認し体験出来る状況であれば体験していただいています。利用する状況になれば必要なサービスにつなげる様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側の関係ではなく一緒に暮らし喜怒哀楽を共にする家族の様な関係でありたいと思っています。出来る事に着目し、得意な事を楽しみながらやっていただき、お年寄りからいたわりや励ましをいただく事もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	用事がないと来ていただけないご家族もあります。家庭環境により仕方ないご家庭もありますが、折りにふれ電話、お便り等で現状をお知らせしたり、ご相談にのっていただいたりしています。家族会にもお誘いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院を利用したり、地域の馴染みの店に買い物に出掛けたり、知人をお茶に誘ったりして、出来るだけ関わりがもてる様に努力しています。	美容院や商店などとのなじみの関係が続いている。親戚や友達の訪問も常にある。お正月などの行事の時には帰宅する入居者もいる。家族・知人などとの関係を断ち切ることなく、継続していけるように工夫し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分が日々変動する為トラブルが生じる時もありますが、状況や原因を探り、その様な状況を作らない様に関わっています。		

真田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されると、疎遠になってしまいがちです。お亡くなりになられた方のご葬儀や新盆にはお参りさせていただいています。良い関係が継続出来る様努力していきたいと考えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でゆっくり話を聴き、把握に努めています。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認する様にしています。ご家族からも情報を得る様にしています。	必ず声を掛けて行動している。入居者との関係も長いので、表情や発する声などを判断の材料にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にご家族から情報を頂いています。その方にとってのこれからの暮らしは今までの暮らしの延長ととらえていますので出来るだけ情報の収集に努めています。入居後も機会ある毎にお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	得意な事、楽しんで出来る事に注目し、関わる様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させる様にしています。必要に応じてご家族を交えてカンファレンスを行っています。ご本人に意向に添った介護計画にしていきたいと思っています。	入居者・家族の意見を聞き作成している。日頃の会話より入居者の希望を聞き出す努力がされている。毎月定例会で話し合いをし、職員の意見を聞き、計画作成者がプランを作っている。全職員が計画を確認している。3ヶ月に1回の見直しもやっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はお年寄りの状態の変化や日々のケアでの気づき、出来事、必要に応じて食事や水分量の記録を行なう事で、スタッフ間の情報の共有化を図っています。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションとの契約により重度化した場合や、終末期の対応が可能でありご本人やご家族の意向に添える様に努力しています。又、通院等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力しています。		

真田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ご近所の方々とのお話を楽しんだり、地域の方々とのふれ合いを多くしています。近くにある小学校児童との交流も楽しみです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も主治医の変更を勧める事はありません。ご本人、ご家族のご希望の応じて対応しています。職員のみでは不可能な受診はご家族にも協力頂いています。往診に来て頂くケースもあり医療機関との関係を密にしています。	5名の入居者全員が法人の運営するクリニックで受診している。3週間に1回の往診と訪問看護が2週間に1回行われている。24時間体制での訪問看護により緊急時にはいつでも対応することが出来、安心した生活を送っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を頂いています。日常的に連携がとれています。協力医療機関との連携もとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはなるべく多く見舞う様にしています。病院側、ご家族、訪問看護師との情報交換や意見交換を行いながら、早期退院に結び付けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う介護についての同意書で指針の説明をし、同意をいただいています。ご家族、医師、看護師を交え話し合いを行いご本人やご家族のご希望やお気持ちに沿った方針で支援を行っています。随時状況の変化をお伝えし、相談、意志確認しながら取り組んでいます。	入居者や家族の要望を聞き、段階に応じた話し合いを進めながら対応している。指針書が作成されており、法人母体で「ターミナルケア」の勉強会も行っている。医師の往診、訪問看護、訪問入浴利用などの協力体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が、消防署の協力を得て、年に1度救急救命法の講習を受講し対応出来る様になっています。緊急連絡網や対応マニュアルを整備し周知徹底を図っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の度に災害などの話しが出来ます。夜間は職員が一人の体制になり非常時の連携には気を付けています。地域の方々にも気にかけていただいています。年1回の訓練には地域、消防の方にも参加していただき協力体制を頂いています。	年に1回地域住民や消防署の参加を得て、入居者・職員が共に訓練を行っている。通信網による模擬訓練も行われている。救急救命法の研修が法人本部で行われており、ホーム職員も参加している。毎日の日誌には防火や災害に備えた具体的な注意書きがあり、日頃からの地道な活動を積み重ねている。	以前夜間想定による避難訓練が行われたが、今後も自然災害時や夜間想定などを組み入れ実施されることを期待したい。

真田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お年寄りを大切に、丁寧な言葉かけに注意しています。スタッフ間でもお互いに注意しあえるようにしています。	職員と入居者の距離が常に近くにあり、大きな声で話さなくても意思が通じるように配慮している。自然に顔を見て話したり、声掛けをしている。入居年数が長い方が多く、性格などや現状の欠落部分も十分把握している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お年寄りの意志や希望を大切にしています。意志を確認し、希望されない事は無理強いする事のない様にしています。言葉では十分に意志表示出来ない場合でも、表情や反応を注意深くキャッチしながら自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りが主体と考えています。お年寄りの希望を最優先する様にしています。一人一人の体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重し、個別的な関わりを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿い、馴染みの床屋や美容院に行けるよう支援しています。個々の生活習慣や好みに合わせる様にしています。身だしなみは大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お年寄りと相談したり、一緒に買い物に出掛けて献立を決める様にしています。得意調理を作って頂いたり、盛り付け、片付け等を行ったりしています。職員とお年寄りが同じテーブルを囲んで楽しく食事出来る様雰囲気作りも大切にしています。	入居者と職員が毎日連れ立ってスーパーへ出掛け食材を買っている。調理は入居者も手伝い、手作りの品が食卓に並べられ、寝たきりの方も食事の時は一緒にテーブルで頂いている。お互い分かり合っている関係であるので、静かな中にも心地よい会話がされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自由に好きな物を楽しめる様配慮しています。食事が充分摂れない方には、食事チェックを行い情報や気づき、アイデアを出し合い、嗜好品や食べやすい物の工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの習慣や意向を踏まえ、個別に働きかけを行っています。自分で出来る方は見守りをし、出来ない方に関してはご本人の力に応じた口腔ケアを行っています。夜間は義歯は義歯洗浄薬につけています。		

真田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を参考に時間を見計ったり、様子から察知し、トイレ誘導、オムツ交換等の支援を行っています。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせ検討しています。極力ご本人が傷つかない様配慮しています。	入居者によって夜間声掛けをしたりトイレへの誘導をしたりと、個々へのきめ細かな対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に限らず、十分な水分補給と野菜中心の食事の提供をしています。買い物に出掛けたり、洗濯物を干したり取り込んだり、散歩に出掛けたりと日常生活の中で自然に身体を動かせる様に工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望される日や時間に沿って入浴していただいています。日中、夕食前、夕食後、就寝前等それぞれです。入浴を好まない方に対しては声かけのタイミングや入りたくなるような誘いの工夫をしています。入浴剤も好みに応じて使用しています。	個々の希望に沿って対応しており、好きな時間の入浴が出来るようになっている。朝から入浴する方や昼入浴の方、夕食後あるいは寝る前の方とその日の気分や体調に合わせて、きめ細かく支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動をしていただいています。眠れない方には、就寝時間にこだわらず、眠くなるまで居間で温かい飲み物など一緒に飲みながら過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明をケース毎に保管し、内容を把握出来る様にしています。薬袋に飲み忘れの無いよう日付を入れています。状態の変化が見られた時は詳細な記録をとるようにし、訪看や協力医療機関との連携を図っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、楽しんで出来る事など負担にならないよう気を配りながらやっています。食事の準備、食後の食器洗い等役割になっている仕事もあります。やっていただいた時には感謝の言葉を伝えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ等出来るだけ外出する機会を多く作るようにしています。歩行困難な方でも、戸外に出る事を積極的に支援しています。	毎日の食材の買い出しや、近所への散歩など日常的に行われている。スーパーへ行くことが困難な方にはドライブで外の空気を楽しんでいただいている。毎月の区の「いきいきサロン」への参加も継続支援している。	

真田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持てる方には持っていていただきます。必要な時はご自分で払っていただいています。お年寄りがお金を持つことを阻害する事なく、店で希望される物を買ってご自分で支払いをしていただく事を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話で自室でゆっくり話が出来ます。贈り物が届いた時等、職員から声をかけ電話しやすい雰囲気作りをしています。ご家族や知人からの電話や手紙には、感謝しています。ご希望に応じて自由に電話が出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家を改修している為、お年寄りにとって馴染みやすいつくりになっていると思います。季節の花を飾ったり、寒い時期には炬燵を作る等季節感が感じられる様にし、自宅での生活環境に近い環境で過ごしていただける様工夫しています。	民家を改修したホームなので広すぎず、お年寄りの動きにはちょうどいい空間が確保されている。食事をするテーブルや居間の炬燵には足の不自由な方に合わせた工夫がされている。壁面や戸障子には入居者自らの手による作品が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い家なので共有空間は少ないです。自由に生活をしていただいていますので、一人で過ごしたい時はご自分の部屋で過ごされています。天気の良い日は庭で花を眺めながら、気の合う同士で日向ぼっこをたのまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具、大切にしていた物等入居時にお願ひしています。ご自分なりの整理の仕方、こだわりのある方もいらしゃいますので、相談しながら、ご本人にとって居心地の良いお部屋になるように工夫しています。	畳の居室にベットを持ち込む方や布団を敷いて寝る方など、要望に応じている。寝たきりの方は居間に面した居室で、襖が開け放たれ、いつも人の雰囲気を感じながら安心して過ごしている。ホームでの生活は家庭での生活の継続を基本に、更に課題を検討し改善へと繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人にとって「なにがわかりにくいのか」「どうしたらご自分の力でやっていたらいいか」を職員で話し合い、必要に応じてご家族にも協力していただく事もあります。心身機能の状態の変化に考慮し生活環境の改善にとりくんでいます。		